

ご存知ですか？

- 性的暴行 (sexual assault) 加害者の殆どは被害者の知り合いです。面識がない人ではありません。
- 性的暴行は、性関係をもつカップルの間によく起こる虐待の一種です。
- 米国女性の4人に1人が、親密な関係にあるパートナーから身体的あるいは性的虐待を受けたことがあると言います。
- 性的暴行の被害にあった後にカウンセリングを受けないと、うつ状態、フラッシュバック (記憶の再体験)、不安、悪夢、ならびに睡眠・食事パターンの変化などが高じることがあります。
- 性的暴行の結果妊娠するケースは毎年32,000件以上であると考えられています。
- 男性の性的暴行殴打により、パートナーが大けがをすることがよくあります。暴力がエスカレートし、致死事件が生じることもあります。
- 性的暴行を甘受したからといって、被害者がこれに合意したことにはなりません。
- 大けが (骨折、失血、あざなど) が無い場合も性的暴行と呼ばれます。
- 性的暴行を受け病院に行った際、医療保険に入っていない人の場合でも、犯罪被害者委員会 (Crime Victims Board) による病院への治療費払い戻しが適用されます。
- ニューヨーク市警本部 (NYPD) では、警察に救済を求める犯罪被害者や証人などに対し、移民ステータスに関する質問をしない方針をとっています。

本企画は、米国司法省司法計画部内、女性に対する暴力防止・対策課 (Violence Against Women Office) から経済協力を得ています (助成金番号 2001-WE-BX-0006)。本書は著者の見解を反映するものであり、必ずしも米国司法省の公的見解あるいは政策を反映するものではありません。

救済を求める

- **911番 (警察) に電話をして下さい。性的暴行は犯罪です。** 必要であれば治療が受けられるよう警察が手配し、また特別被害者班 (Special Victims Squad) の係員に事件を委託します。同班の警察官は、性的暴行被害者への対応には特別の配慮を示すよう訓練を受けています。
- **病院に行ってください。** 病院では傷害が記録され、治療が受けられます。1人で行きにくい場合は誰かに同伴してもらいましょう。ニューヨーク市の公立病院では性的暴行を専門に取り扱うスタッフが待機し、被害者のお世話をします。
- **電話相談サービス(下記参照)を利用して下さい。電話の対応は英語の場合があります。** 英語が話せない方は、「Japanese」と英語で指定してください。こちらで日本語通訳を手配いたします。

主要連絡先

緊急通報の電話番号は911番です。(全ての言語、フリーダイヤル)
緊急以外、市各局への連絡は311番です。(全ての言語、フリーダイヤル)

NY市警本部特別被害者連絡班

212-267-7273 英語、スペイン語、24時間対応

レイブ・性的暴行・近親相姦ホットライン

212-227-3000 全言語、24時間対応

NY市家庭内暴力ホットライン

1-800-621-4673 全言語、フリーダイヤル、24時間対応

1-800-810-7444 TDD、フリーダイヤル、24時間対応



市長 Michael R. Bloomberg
ニューヨーク市警本部長
Raymond W. Kelly
ニューヨーク市家庭内暴力対策課主任
Yolanda B. Jimenez

性的暴行 (Sexual Assault)

を受けた 場合の対処法



性的暴行とは？

性 的暴行(sexual assault)とは、暴力により若しくは暴力を振るうという脅しにより、または被害者が合意できないときに（被害者が17歳以下若しくは意識不明などの場合）起こる以下のような行為のことです。

- 加害者との性交：挿入の度合いにかかわらず、あなたの膣内、口内、または肛門へ加害者が性器を挿入。
- 衣服の上から又は内側からを問わず、あなたの体の私的な部分に触れた。（胸、尻、及び股間部）
- 衣服の上から又は内側からを問わず、他人の体の私的部分に触れることをあなたに強要した。
- 膣、尿道、ペニス、または肛門に指あるいは異物を挿入。

上記のいずれの行為も、米国法により犯罪とみなされます。こういった暴行を受けた場合は直ちに通報し、救済を求めて下さい。

パートナーである無しにかかわらず、合意無しであなたの体に触れる権利は、誰にもありません。

あなたの落ち度ではありません。
性的暴行は加害者が犯す罪であり、被害者の行為が原因で起こるものではありません。

性的暴行に対する誤った考え方

誤：配偶者や恋人からの性的暴行は不可能。

正：加害者が被害者の配偶者または恋人であるケースが多くみられます。身近な人が加害者である場合も、性的暴行は犯罪です。

誤：セックスや愛撫の強要は大した問題ではない。

正：性的暴行は重罪であり、身体、心理、及び感情の面で短期かつ長期的な影響を被害者に及ぼします。

誤：挑発的な衣服を着る人は、性的暴行を受けても仕方がない。

正：「性的暴行を受けても仕方がない人」などは、1人もいません。実際、性的暴行は、被害者の性別、年齢、人種、社会階級、宗教、職業、また衣服の選択に関係なく起こっています。

誤：被害者が拒めば、性的暴行は起こらない。

正：恐怖や脅迫により体が動かなくなることは、誰にでもあります。

誤：抵抗をしなかったから、強姦または性的暴行ではない。

正：合意無しで強要された性交は、レイプとみなされます。抵抗の有無は関係ありません。

誤：通報すれば加害者が逮捕される。

正：殆どの場合、被害者による警官および地方検事補（Assistant District Attorney）への協力なしでは、加害者の逮捕につながりません。

誤：米国市民でなければ救済が得られない。

正：法律サービスやカウンセリングなど、米国市民および非米国市民に対しさまざまなサービスがあります。24時間および全言語応答体制のSexual Assault Hotline (212-227-3000)、または NYPD Special Victims Liaison Unit (212-267-7273) に連絡し救済を求めて下さい。あらゆる性的暴行を理解し、特別訓練を受けた女性警察官が親切に応答します。また、電話の内容は、一切守秘事項として取り扱われます。

性的暴行を受けたら

- 911（警察）に電話通報して下さい。傷の治療および暴行の証拠収集ができる病院まで警察官が同行します。性的暴行事件は、特別被害者班の警察官に委託されます。尚、同班の警察官は、性的暴行被害者への対応に特別の配慮を示すよう訓練を受けています。
- 暴行を受けた場合は、ただちに治療を受けて下さい。医師から傷および可能性のある性病感染に対する治療を受け、また妊娠を未然に防ぐことができます。診察の際は個人のプライバシーを尊重し、警察官は同行しません。暴行前に麻薬などを飲まされた疑いがある場合、尿および血液サンプルを直ちに採取します。
- 洗浄、シャワー、歯磨きを避け、また髪の毛を梳かず、手を洗う、もしくは衣服を捨てることも避けて下さい。検査員が暴行の証拠を収集できるよう協力して下さい。同加害者による他の暴行事件を未然に防ぐことができるかもしれません。
- 恐れずに聞いて下さい。警察官や医療関係者が全てを説明してくれます。あなたを救済することが職務ですから、何事も恐れずに聞いて下さい。
- 専門家によるカウンセリングまたはサポートを受けることができます。暴行行為やそれに関する感情について他の人に話を聞いてもらうことで、性的暴行により受けた影響に対処できるようになることがあります。Sexual Assault Hotline に電話をし、地域の専門家を紹介してもらいましょう。
- 法的権利や利用可能な各種サービスを知ることが大切です。911 に通報した後は、暴行事件報告書を作成し、傷の治療を受け、またカウンセリングが受けられるよう、警察がお手伝いをします。加害者との関係にかかわらず、性的暴行は犯罪だということを忘れないで下さい。